

豊穣のネットワーク 社会的生産はいかに市場と自由を変えるか

The Wealth of Networks: How Social Production Changes Market and Freedom

ヨハイ・ベンクラー | 訳=ドミニク・チェン+生員直人

Yochai Benkler / trans. Dominick Chen and Naoto Ikegai

第1章 はじめに——機会と挑戦のとき

情報・知識・文化は、人間の自由と発展を担う中心的な要素である。それらがわたしたちの社会のなかでどのように生産され、流通するのかということは、わたしたちが世界の現状と今後をどのように捉え、誰がその決定に関わり、そして組織や政党の構成員としてわたしたちに何ができ、何がなされるべきなのか、といったことに深く影響する。過去150年以上にわたって、近代の複雑な民主的社会はこうした基本的な機能の大部分を産業型情報経済によって担保してきた。そして今日までの15年間において、わたしたちは情報生産の様式が極端に変革されようとしているのを見てきた。わたしたちは、技術の変化によって引き起こされた一連の経済的、社会的、そして文化的な適応を通して、わたしたち自身が自律的な個人、市民、そして文化的・社会的なグループの一員として参加している情報環境のデザイン方法もがラディカルに変化してきていることを知っている。今日、「インターネット革命」という言葉を口にするのはなくなった。いくつかのアカデミックな領域では、その言葉はいまだにナイーブに肯定されているが、しかし、それは過ちだろう。ネットワーク情報環境がもたらした変化は、その言葉が示すものよりもはるかに深い根を張っているからだ。この変革は構造的である。それは、過去2世紀に渡って自由市場とリベラルな民主的社会が共生的に進化してきた根っこの部分までもつながる。

この環境のなかで起きた、生産に関する技術、経済様式、そして社会慣

習の一連の変化は、情報・知識・文化の生産と流通の新しい契機を数多く生み出した。これらの変化は、協働のゆるい連帯によって結びついた個人や組織の参加によって、非市場のかつ非専有的な生産の役割を増大させてきた。こうして新しく出現した実践は、マルチプレイヤー・オンライン・ゲームから前衛的な映像作品、調査報告書やソフトウェア開発を含む多種多様な領域において、めざましい成功をあげている。それらが共通して示していることは、今現われている新しい情報環境においては、20世紀的な産業型情報経済では望むこともできなかったような能動的役割を、個人が選択することが可能になったことだ。この新しい自由は実際に重要な可能性を持っている。それは個人的な自由の次元においても、より公正な民主的参加のプラットフォームとして、より批評的で内省的な文化を醸成するための道具として、そして情報に対する依存度を高めつづけるグローバル経済のあらゆる地域の人間の生活水準を改善するための機構としても捉えることができるだろう。

しかし、個人による情報と文化の非市場型協働に基づいた生産様式がその存在感を増せば増すほど、前世紀的な産業型情報経済を脅かすことにもなる。この21世紀のはじまりにおいて、わたしたちはデジタル環境をめぐる制度的な闘争の真ただ中にいる。通信、著作権、国際貿易規定のような広範な領域から、ドメインネーム登録に関する規定やデジタルテレビ放送において特定のコードを認識するための受信機の配置を法的に強制するかどうかといった詳細な議論に至るまで、多くの法律や制度がそこにかかわる主体のあいだで争われている。これらの闘いが今後のおおよそ10年あいだで迎える結末は、わたしたち自身が自律的な個人、市民、そして文化的・社会的なグループの一員として参加しているこの世界の現状と今後をどのように捉えるのかということに深く影響していくのだ。

ネットワーク型情報経済の出現